

あなたもチャレンジ！ 家庭菜園

連作も可、たくさん育てよう タマネギ

板木技術士事務所●板木利隆

涙の原因となる硫化アリルは、ビタミン B1 の吸収を助けて新陳代謝を活発にし、コレステロールの代謝を促し、血液をサラサラにして動脈硬化や高血圧、糖尿病を予防する効果もあります。野菜の中では最も細菌類、大腸菌など寄せ付けず、安全性でも優れています。病害にも強く、毎年同じ畑で作れるので大変好都合です。貯蔵力もあり、使い道も幅広いので、たくさん育てることをお勧めします。

家庭菜園では通常、秋に出回る苗を買い求めて育てる場合が多いのですが、ご承知のように、タマネギには黄、白、赤の種類があり、収穫期の違う極早生、早生、中生、晩生と特徴のある数々の品種があります。これらを育て楽しむには、自分で好みの品種を選び、種子から育てる必要があります。特に直売など販売を目的とする場合は、苗作りから始めないと特徴ある商品が作れず、苗代の負担も大きくなってしまいます。

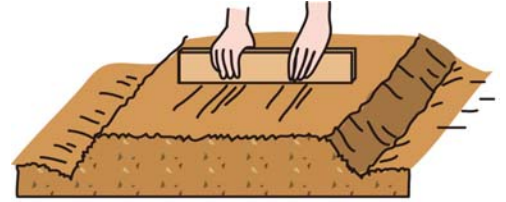
種まきの適期は極早生 8 月下旬～9 月初旬、早生 9 月上旬、中生 9 月中旬、晩生 9 月下旬で、それぞれ違います。適期まきはとても重要なことなので、地元の JA や園芸専門店、栽培農家などに聞いて決めてください。中晩生の品種を早くまき過ぎると、越冬までに大きく育ち過ぎて、とう立ちが多くなります。

上手に育てるには、前作を早めに片付け、20 日以上前もって完熟堆肥を少量と石灰、化成肥料をばらまき、よく耕しておきます。ナス、トマトなど根が残る野菜の跡地は避けてください。

種まき前にベッドを作り、図のように丁寧にならしてから、厚薄なく均一に種をまきます。そしてふるいで 2mm ほどの厚さに、満遍なく覆土し、板切れなどで軽く鎮圧してからたっぷり灌水(かんすい)します。その上に細かく砕いた完熟堆肥をごく薄くまき、苗床全面を稲わらで(ない場合はべた掛け資材を二重に)覆い、残暑や乾燥、台風や強雨の被害から守ります。5～7 日たち発芽し苗が伸び始めたならこれらの資材は取り除き、たっぷり灌水して生育を促します。

苗が 5～7cm ぐらいに伸びた頃と、その半月後に、苗の上から化成肥料を若干ばらまき、それが見えなくなるぐらいにふるいで土入れをします。草が生えやすいので、除草を怠らないように。また、秋雨の頃はべと病が発生しやすいので、薬剤散布も。ここで防いでおけば春の発病も少なくて済みます。

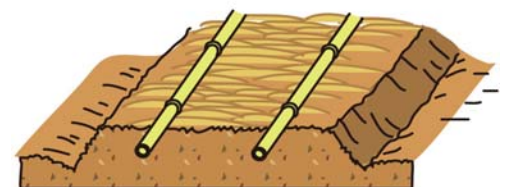
太さ 5mm、草丈 25cm ほどになったら苗の仕上がり、寒さが厳しくならないうちに苗の大きさをできるだけそろえて抜き取り、定植します。



表面が平らになるよう
丁寧に平らにす



種まき後の覆土は
2mmぐらい



発芽するまで稲わらまたは
べた掛け資材で覆う



追肥・土入れは
草丈5～7cmの頃と
その半月後の2回